

竹早だより

平成26年度2月号
平成27年2月16日
東京都立竹早高等学校
文京区小石川4-2-1
電話03(3811)6961

リスクを低減させる生活を

校長 高田 純一

2月後半になりました。相変わらず寒い日が続きますが、生徒たちは元気に学校生活を送っています。来週は高校入試のため、授業が1日半しかありません。学年末考査も近づいていますので、次の学年につながるまとまった勉強の機会にしましょう。

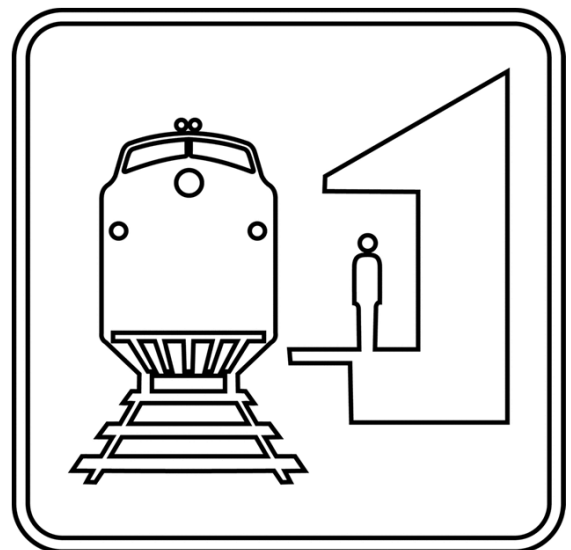
さて、私たちが現代社会を生きる上で、様々なリスクと全く無縁の生活を送ることは不可能です。しかし、できるだけリスクを低減させることはできるはずで

例を挙げて説明します。東京での生活で最も危険な場所の1つが「駅のホーム」です。最近ホームドアを設置する駅も増えてきましたが、むき出しのホームはまだ多数あります。そうした駅のホームで、黄色い線の内側に並んでいる人たちの「前」を歩く人がいます。危険であり、人が立ち入らない場所ですから、歩きやすいに違いありませんが、まさに「命がけ」の歩行になります。私にはとてもできないことです。一般的に駅のホームの高さは120cmと言われます。恐怖を感じるというほどの高さではありませんが、電車が入ってくる瞬間は命を失う高さに変貌します。私は高さ1,000mの崖をイメージします。そうすると黄色い線の外に出る気など全く起きなくなります。「想像力」をもつことでリスクは確実に低減できます。よく「ホームから誤って転落」と言います。それならば「誤らない」ようにすればいいかということ、人間には無理です。「誤っても転落しない」ようにしておくことです。私は「自分が突然気を失う」「人がぶつかってくる」という場合を想定して、注意深くホームに立つようにしています。

交通事故についても同じです。交通量の少ない道を選んで歩くとか、目立つ色の服装をするとか、打つ手はかなりあります。私は、竹早高校の校門前の横断歩道で信号待ちをする際、信号機の鉄柱の左側に立つようにしています。右から車に突っ込まれても、直撃は避けられるからです。いくら何でも考え過ぎだろうと思われるかも知れませんが、打てる手はすべて打ちたいと考えています。

街を歩く際も、ビルの工事現場などがある場合は、なるべく反対側の道を歩くようにしています。電車の中で居眠りしてしまいそうなときは、カバンのひもを腕に二重に巻いて紛失しないように用心します。簡単にできることはなるべく実践するようにしています。

リスクを低減させるためのキーワードは、「想像力」です。皆さんが、自転車や歩道を走行する際、前を歩くお年寄りが左右によろける「かもしれない」と想像してみることが事故の防止につながるのです。この東京で、少しでも安全に暮らしていきたいものです。



盛り上がった合唱コンクール

2月5日（木）今年度の合唱コンクールを豊島公会堂で実施しました。体育館工事のために学校ではなく外部会場をお借りしました。また、当日は高校入試の入学願書受付と重なり、3割ほどの先生が参加できないという異例尽くしの合唱コンになりましたが、大ホールに素晴らしいハーモニーを響かせることができました。

また、生徒諸君の参加マナーも良好で、ゴミがほとんど残されないという合唱コンになりました。ご覧いただいた保護者の皆様、ご声援ありがとうございました。



<最優秀賞 1年B組>



<第3位 1年D組 最優秀伴奏者賞 二瓶君>



<優秀賞 1年E組>



<最優秀指揮者賞 2年C組 炭田君>

2月・3月の主な行事予定

<2月>

- 17（火）都立帰国入試
- 24（火）都立一般入試
- 25（水）卒業式代休
- 26（木）自宅学習



<3月>

- 6（金）学年末考査（1・2）始
- 7（土）卒業式（お茶の水女子大にて）
- 11（水）学年末考査（1・2）終
- 21（土）春分の日
- 25（水）修了式
- 26（木）春季休業日始